



あかいつ子通信

子供への思い「なにぬねの」

- ㊦ 泣いたっていい
- ㊧ 逃げてもいい
- ㊨ 抜かれたって構わない
- ㊩ ネジを巻く時間も必要さ
- ㊪ のんびりいこうよ

【「子供の最善の利益」とは】

HP「こども基本法とは?」



寒さが増し、晩秋から初冬に差し掛かる時期になりました。「子供は風の子」と言いますが、あかいつ子は寒さに負けず、校庭を駆け抜ける姿が見られます。

さて、本題の「子供の最善の利益」とは、子供たちの権利に関する条約が国際連合で採択された際の基本原則となった考え方で、日本でも「こども基本法」として令和5年度より施行されているものです。具体的には「全ての子供は大人たちから保護され、世話を受け、関心が向けられ、愛され、信頼のもとで見守られる」というものであり、裁判所もこれを原則とします。しかし、「原則だから子供を守る」という保護者の方はいないと思います。初めてお子さんと出会った感動を大切に、その笑顔を守るため、無償の愛情を注ぎ続けてここまで育ててくださったのだと思います。その大切なお子さんの健全な成長のため、学校も家庭と歩調を合わせ全力で指導に当たっていきたく考えています。

11月のSC来校日

14日(木) 21日(木)

心配事は 小さなうちに 相談を

あかいつ子通信や各種学校からのお便りのバックナンバーはここから。

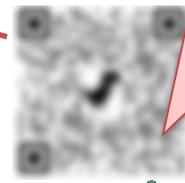


【「でめこんCM」 限定公開】

「子ども未来サミット」で、第二学区の小中学校はでめこんを推進するCMを作成し、互いの学校で活用することになりました。本校でも高学年児童が脚本、演出を担当して、すてきなCMが完成いたしました。保護者の皆様にもあかいつ子の熱演をご覧になっていただき、これまで以上にでめこん推進へご協力をいただければと思います。CMへの反響もお待ちしております!!



YouTube限定公開 赤井小「でめこんCM」



ご家庭向けに配付したのからご確認ください。



親子の小窓



第5回テーマは「**共感的理解**」です。「共感的理解」とは相手そのものを理解しようとする事です。これまで「支援の小窓」で紹介してきた「**傾聴**」や「**受容**」などの実践を通し、相手の**考え、立場、個性、全てを受け入れようとする**、カウンセリングの基盤になるものです。お子さんの状況にもよりますが、共感的理解を意識した支援を行う際にはしてはいけないのは「**評価**」や「**助言**」です。お子さんにとって、家族に理解してもらくくらい安心することはありません。言葉と、その言葉の裏にある本当に伝えたいことまでを感じ取ろうとする姿勢を、大切にしたいものですね。

関わりのポイント



- 1 「自分の考えを伝える」のではなく、「**子供の考えを引き出す**」のが大切です。
- 2 「**相手を変えよう**」と考えるのではなく、「**相手の心に寄り添おう**」と考え、子供の話を傾聴しましょう。

【9月の でめこんアンケート結果 より】

赤井小学校児童へのアンケート結果です。(数字は%を表します。)

A：よくできた B：まあまあできた C：あまりできなかった D：できなかった
A+Bの合計（前向きなアンケート結果）が先月より 増：青 減：赤

	下学年(1~3年生)				上学年(4~6年生)			
	A	B	C	D	A	B	C	D
①1日1時間の使用	51.4	29.7	10.8	8.1	39.3	37.7	18.0	4.9
②就寝1時間前までの使用	67.6	21.6	6.8	4.1	55.7	27.9	8.2	8.2
③定時の就寝	56.8	37.8	2.7	2.7	59.0	32.8	3.3	4.9
④定時の起床	64.9	29.7	4.1	1.4	63.9	23.0	11.5	1.6
⑤朝食	83.8	12.2	4.1	0	85.2	9.8	4.9	0
⑥30分以上の運動	75.7	16.2	5.4	2.7	70.5	16.4	6.6	6.6
⑦でめこんを意識した生活	55.4	25.7	8.1	10.8	50.8	36.1	11.5	1.6

夏休みが明け、あかいつ子はでめこんへの高い意識のもとで生活を送っていたことが分かるアンケート結果となりました。特に朝食を全く取っていない児童がいなかったことは、ご家庭の配慮のたまものであると感じます。本当にありがとうございます。今回はSSWの石川先生に朝食が成長に与える影響の大きさについてお聞きしました。



教えて!石川先生 のコーナー

【I:回答者(SSW:石川先生) C:質問者(教務主任:千葉)】

C 「あかいつ子通信」7月号で、朝食の効能と理想的な朝食について教わりました(バックナンバー参照)。もしあかいつ子のようにしっかり朝食を取り続けるとどんな良さがあるのですか?

I 「バランスのよい朝食を子供のころから毎日食べ続けると夢や目標がかなう」と言ったら驚きますか。実は東北大学加齢医学研究所の川島隆太教授が調査し、国も認めているデータには「毎日朝食を食べる子の3割が、偏差値65以上の大学に合格している」「朝食をほぼ毎日とり続けた人たちの半数以上が第1希望の大学に入っていて、朝食を毎日では取らなかった人たちの約3割が第3希望の大学にしか入っていない」などの結果があるのです。

C 驚きました。朝ごはんを毎日食べるだけでそんな効能があるのですね。それはなぜなのでしょう?

I 脳をしっかり働かせるためには、エネルギーが必要です。私たちの脳はたくさんの神経細胞から構成されていて、その間に電気信号を伝えることで、ものを考えたり、体を動かしたりしています。この神経細胞のエネルギーが、ご飯やパンに含まれているでんぷんが消化されてできるブドウ糖です。そして、脳の神経細胞の間をつなぐ電線のようなものを「神経線維」といいますが、子供が何かを学んでいくとき、この神経線維が急激に太くなったり、枝分かれをしたりします。この変化を起こすために、ブドウ糖だけでなく、おかずに含まれる様々な栄養素が欠かせないのです。これらの栄養を毎朝しっかり取ることで、充実した1日を送り続けられることが、子供たちの大きな成長につながっていくのです。

C なるほど。あかいつ子が学力調査で毎年全国平均を上回る結果を残せているのは、日々の学習の頑張りを朝食の栄養が基盤となってしっかり支えているからなのでしょうね。あかいつ子の夢の実現のため、毎日の朝食のあり方を学校が家庭と同じ歩調で考え、指導をしていきます。

